

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570100713		
法人名	社会福祉社 あかつきの里		
事業所名	グループホーム あかつきの里		
所在地	山口県下関市汐入町36-6		
自己評価作成日	平成26年12月31日	評価結果市町受理日	平成27年6月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手作りのもの、四季折々の飾り等に囲まれ、暖かい環境の中でゆったりとその人らしく暮らせることを目標にしています。利用者が得意の分野で、一人ひとりを発揮出切るように支援したり、暮らしの希望や思いや意向を把握して個別ケアに取り組んでいます。レベルの差がある18名ですがさりげなくお互いを助けあい生き生きした言動・笑顔で過ごして頂けるよう心掛けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の楽しみごとの機会を増やしたいとの職員の意見から、月1回、「手づくりおやつの日」を設けられ、ケーキやプリン、焼きそば、お好み焼きなどをつくって、利用者と職員と一緒に楽しんでいます。事業所で「あかつき喫茶」を週4回開催され、メニューから好みの飲み物を選んでディタイムを楽しめるように工夫して支援しておられます。目標達成計画を基に運営推進会議の内容を検討され、職員の研修内容の報告やヒヤリハット報告の検討など内容の充実を図っておられます。朝礼時等を活用し外部研修で学んだことを復伝されるなど、職員が学べる機会をたびたび設けられ、内部研修の充実を図っておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をホーム内に掲示している。朝礼時出勤職員全員で唱和し常に念頭に置き、日々の生活の中で実践に繋げるよう努力している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示し、朝礼時に唱和して共有している。日々のケアの中での気づきを理念に立ち戻って確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、職員は海響マラソンの行事などにボランティアで参加している。自治会と法人が合同で開催する夏祭りに利用者や家族が参加して地域の方・ケアハウスの方と平家踊り、夜店、カラオケ等楽しみ交流を図っている。散歩時には地域の方と挨拶を交わし、立ち話をしたり、ボランティアで学生さん(ハンドベル)の訪問もあり、日常的に交流している	自治会に加入し、自治会と法人が合同で開催している夏祭りに、利用者や家族も参加して、地域の人やケアハウス利用者と交流をしている。職員は海響マラソンにボランティアとして参加している。法人主催のハモニカ演奏やハンドベル演奏に参加し、ケアハウスの利用者や法人職員と交流している。散歩時には地域の人やデイサービス利用者と挨拶したり、立ち話をしている。地域の人から梨の差し入れがあるなど、日常的に交流している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、自治会長、民生委員、地域包括センター、家族会の方々の意見を頂くとともに認知症の理解、支援していくことの大切さをいつも発信している		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に評価の意義について説明。項目毎に配布、記入して貰い管理者とリーダーとまとめている。運営推進会議時にメンバー拡大の大切さを説明してはいるが中々拡大には至らず。内部研修は、外部研修があれば随時行なっている	自己評価は職員に評価の意義について説明し、項目を分けて記入してもらい管理者とリーダーがまとめている。前回の外部評価結果は運営推進会議で報告し、職員会議で話し合い、目標達成計画を立てて、内部研修の充実など、改善に取り組んでいる。参加を得るまでには至っていないが、運営推進会議のメンバーの拡大にむけて働きかけを行っている。	・全職員による評価の取り組み

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催、利用者の状況・活動内容・事故・ヒヤリ・ハットの報告・内外研修の参加報告・研修発表をしている。自治会長・民生委員・地域包括支援センター・御家族と意見交換しサービスの向上に繋げるようにしている。メンバーの拡大については声かけするも、拡大までには至っていない	2ヶ月に1回開催し、事業所の現状や活動、事故・ヒヤリハット、研修、外部評価結果などの報告を行い、地域行事などの情報交換などを行っている。議事録をメンバーや全家族に送付しているが、どんな意見が交わされたか十分に伝えるには至っていない。	・議事録の充実
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課とは、提出書類を持ち寄ったとき・集団指導時などで相談をして助言を得たり、情報交換して協力関係を築けるように取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議、時々訪問し、電話で利用者の状況について相談して助言を受けている	市担当課とは、運営推進会議時(年1回出席)や、職員が議事録を持参して出向いたり、電話で相談し助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議参加時に情報交換をしたり、助言を得るなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何だかの事由が起こる度、身体拘束をしないケアについて話し合い取り組んでいる。日中玄関には鍵を掛けずに外出を察知した場合は利用者と一緒に出掛ける他、気分転換等できるよう取り組んでいる。スピーチロックについても職員間で注意しあっている	マニュアルがあり、職員は法人の研修を受けて学んでいる他、スタッフ会議や朝礼などで話し合っ、身体拘束をしないケアに努めている。玄関には施錠せず、外出を察知した時は一緒に出かけるなど工夫している。スピーチロックにならないよう職員間で注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学び全員で確認している。常にマニュアルを目の届く所に置き、日頃から全員で話し合い注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議などで制度について学んでいる。権利擁護については現在利用されている方がおられるので生活支援員の方からアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は契約書、重要事項説明書、パンフレットを用いて誠意をもって十分に説明をし、理解納得していただけるよう何度も説明するようにしている。改定等は家族総会にて説明を行い再契約している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を選任し、苦情や相談受付体制を明示するとともに、苦情処理手続きを定め契約時に説明している。運営推進会議時、面会時、家族会(年3回)、行事参加時、電話等で意見や要望を聞いている。運営に反映するまでの意見は」でていない	契約時に相談や苦情の受付体制や第三者委員、処理手続きを家族に説明している。面会時や電話、年3回の家族会時、夏まつり時、運営推進会議時などで、家族の意見や要望を聞いている。家族の意見から月1回送付する事業所だよりにより利用者の近況を伝えるメモを添付しているなど、意見を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や日常の業務の中で管理者は意見や提案を聞くように努力している。	月1回のスタッフ会議や、月1,2回のカンファレンス、2ユニット合同の朝礼で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気をつくり、管理者が聞いている。職員の意見から月1回手づくりおやつの日を設けたり、月1回利用者が3名ずつ交代で、ユニット間交流する機会を設けるなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に配置して目標を持って取り組んで行えるように努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として参加している。法人研修は緊急時の対応、接遇、感染症…など受講。受講後は資料をコピーして職員に配布。同時に内部研修として随時実施している。職員は働きながら介護技術や身につけるよう取り組んでいる	外部研修は情報を職員に伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講者は朝礼時に復伝を行い情報の共有をしている。月1回実施している法人研修に職員が交代で参加し、月1回の内部研修で報告し、資料を配布し、閲覧している。日々のケアを通して職員同士で教えあって働きながら技術を身につけるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内・市内の研修会にて交流する機会を作ってサービスの向上、質の高い介護を目指している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安にならないよう常時声掛けを行い、会話の中で得た情報は職員全員が共有し関係づくりに役立てている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会を頻繁にして頂く。その中でご家族に出来る限り日常の生活の状態を伝え、不安や要望を相談しやすい環境を整えるようにしている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	始めに本人とご家族から要望を傾聴する。本人にとって何が一番幸せであり、必要なのか見極めた支援を行いご家族にも安心して頂けるよう努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と生活を共にする仲間であり又人生の先輩であるという意識を持ち、共に笑ったり泣いたり出来る関係作りに努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と連絡を密にし、本人の様子や健康状態を伝えたり、面会をお願いするなど共に支えて行く関係を築くようにしている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、親戚の人の来訪、馴染みの美容院の利用、季節の手紙・電話の支援、自宅周辺のドライブ等家族の協力のもと馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している	家族や親戚の人、デイサービスを利用する友人や知人の来訪がある他、電話や手紙、年賀状、暑中見舞いでの交流を支援している。日常の会話の中で利用者の懐かしい場所や人の話題などを取り上げるようにして、馴染みの関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりの時間を尊重しつつ孤立することのないよう、互いに協力してやれるようなレクリエーション・作業の支援に努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に変えられても、面会やお見舞い等により情報収集をし、本人・家族からの相談にいつでも対応できるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの他、日々の関わりの中で利用者の言葉や行動などをケース記録やセンター方式のシートに記録する他、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位で検討している	入居時に家族から話を聞いて、センター方式のシートを活用してアセスメントしている他、日常の関わり中での利用者の言葉をケース記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式の基本シートを記入していただいたり、入居前に利用していた施設や在宅のケアマネから情報提供をいただき情報収集に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームの一日の生活のリズムに添ってバイタルチェック、生活チェック表で健康管理をし、その方の出来る範囲でレク活動や家事参加を促している		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、管理者、担当職員でケアカンファレンス行なう。本人、家族・主治医・看護師の意見を参考に話し合い介護計画書を作成している。毎月モニタリングを実施6ヶ月毎の見直しをしている。要望や状況に変化があれば見直し、現状に即した計画書を作成するように努めている	本人の思いや家族の意向、主治医や職員の意見を参考にし、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。2ヶ月に1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。月1～2回のカンファレンスや、スタッフ会議、朝礼で度々話し合い、利用者の状況の変化に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼時・スタッフ会議・日々の記録・モニタリング等で情報を共有している。変化があった時はその都度、朝礼後ミーティングして対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの利用者についての独自の生活歴、個性や希望、現在の心身状態を把握しその人らしく暮らしていく為の現時点での課題を介護計画に取り入れて支援することに努めている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り等大きな行事の時には、ボランティアを利用している。又、2ヶ月に1回ビューティヘルパーを利用。同じ事業所内の保育園児との交流を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅支援診療を利用。月2回の往診がある。他科受診時も支援診療より情報提供して頂く。家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果については家族に直接連絡したり（希望者には）薬剤情報提供書・検査結果などFAX で送ったりと情報を共有し適切な医療を受けられるよう支援している	本人や家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。他科の受診は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は家族に連絡し、ケース記録や連絡帳、医療連携申し送りファイルで職員間で情報を共有している。緊急時には協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H26 7月よりグループホーム看護師が不在となった為、職員間で周知できるように”医療連携申し送り”ファイルに気づきや情報を記入して、往診時に相談、特変時には電話にて相談・助言をうけている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	支援診療により吉水内科と連携。また昭和病院との連携も可能となっている。常に病院関係者とは情報交換・カンファレンスを行い早期退院できるように支援している		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人・ご家族と話し合い、気持ちを大切にしながら主治医の意見をもとに、看護師・職員全員で話し合いを繰り返している。方針を共有し安心・安全を保てるよう取り組んでいる	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は早い段階から往診時に主治医と相談し、家族や職員と話し合っ、医療機関や他施設への移設を含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時、全職員で検討会議を行い発生原因や対処方法を話し合い今後のケアを徹底している。また、各々日々の健康状態を把握・変化を見逃さないように心掛けている。応急手当や初期対応の訓練の内部研修を行い実践力を身につけるようにしている	事例が生じた場合は、小さなことも事故報告書にその日の職員が記録し、全職員に回覧して共有し、朝礼で対応策や意見を検討している。管理者は法人のリスクマネジメント委員会に報告し、再度見直す検討会議を行っている。転倒防止のために家族と話し合ったり、運営推進会議で検討し、一時的に鈴をつけるなど工夫して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練を行っているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるため訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練をグループホーム内で実施・消防士の協力得て同グループ内の事業所と合同で避難訓練行っている。また運営推進会議等で地域の方の連携をお願いしたり、施設を地域の避難場所に提供するなど情報を発信している。	法人事業所合同で年1回、消防署の協力を得て昼間の風水害、火災を想定した訓練を行っている他、年4回、事業所独自で昼夜間を想定した避難訓練を、利用者も参加して行っている。運営推進会議で話し合い、事業所を地域の避難場所として提供することなどを提案したり、地域との協力を検討しているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を通し利用者さんへの言葉かけや対応を常に意識している。施設内研修も行い利用者さんの人格・プライバシーや自尊心の尊重を心掛けている	法人の接遇研修や内部研修を受け、全職員が人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。職員は誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところは管理者が注意したり、職員同士で話し合ったりしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々観察・会話の中で、利用者の思いを聞けるように努力し何かあれば寄り添い、ゆっくり話を聞いて解決出来る様支援している		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のタイムスケジュールはあるが、それにとらわれる事なく、利用者の体調や気分を考慮し臨機応変に生活の支援を行なっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	来設される美容師さんに好みの髪型にしてい いただきおしゃれを楽しんで頂く。洋服は季 節に合った物を着て頂く。また個人的に化 粧をしたり、マニキュアを塗っておしゃれが 出来るよう支援している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	利用者に好みを聞き会話をしながら一緒に 料理を作ったり、切ったりしている。また職員 と一緒にテーブルを拭いたり、お茶の準備、 食器を洗って頂いている。週に4回あかつき カフェを行いメニューの中からお好みの飲物 を選んで頂く。 月に一回のおやつ作り、焼そば又はお好み 焼き作り、外食など食事が楽しみなものにな るよう支援している	昼食は法人の配食を利用し、ご飯や朝食、夕 食は事業所で調理して、利用者の状態に合 わせた形状で提供している。利用者はテー ブル拭きやお茶の準備、食器洗いなどを職員と 一緒にしている。外食の機会や月1回おやつ づくりの日(ケーキやプリン、焼きそば、お好 み焼きなど)がある他、今年から好みの飲み 物を楽しめる「あかつき喫茶」を週4回開催し たり、家族の協力を得ての外食など、食事が 楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養士のメニューのもと、料理を作っており 主治医の指示で栄養補助食品を利用してい る。個人に合わせ、主・副の量を決めており 水分量はケース記録に記入し把握している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食後自ら歯磨きをされている方もおられる。 朝、夕は習慣になっており1人1人対応し、 義歯の方は手入れ出来ているか声かけ見守 り、夕食後、洗浄液につけ衛生管理している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとり排泄時間に合わせたトイレへの声 かけをしてトイレで排泄出来るように、又紙パ ンツの使用を軽減できるよう支援している。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、 プライバシーに配慮した声かけや誘導をし て、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支 援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	便秘を少しでも和らげる為、水分補給や食 物・リハビリ体操を取り入れ軽減を図る便秘 の改善が見られない場合は、医師と相談の 上、日にちを決めて薬を服薬していただく		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は2日に一回、午前中となっているが一人ひとりの希望やタイミングに合わせて24時間いつでも入浴できるように浴槽に湯を張り準備している。入浴拒否のあるときは声掛けの仕方を変え努力はするが無理強いはいらない	入浴は、10時から12時の間可能で、希望やタイミングに合わせて24時間いつでも入浴できるよう準備をして、2日に1回は入浴できるように支援している。状態に合わせてシャワー浴や清拭、足浴の支援をしている他、その人の好みのシャンプーの使用や湯温の設定、気のあった人同士の入浴など、一人ひとりに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。入浴したくない人には、声かけの工夫をしたり、タイミングをずらすなど工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調等見守り観察し、疲労等感じられる時は昼寝を促したり、休憩を取って頂くよう心がけている。夜眠れない時は寄り添い話を傾聴する		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬情をケース記録にファイルしていて各職員理解に努めている。症状の変化には連絡ノート・朝礼時に周知している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝い・洗濯に関する事・掃除・花の管理・テレビ・DVD・リハビリ体操・レクリエーション・また季節の花見・季節の行事…等活躍できる場面作りや楽しみ事や気分転換が出来るように支援している。	誕生会、節分、バレンタインデー、ひな祭り、七夕の茶話会、花火大会、そうめん流し、敬老会、クリスマス会、忘年会、月1回のおやつづくりの日、2ヶ月に1回のビューティヘルパーなどの行事や、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、折り紙、牛乳パック手芸、習字、カラオケ、しりとり、トランプ、坊主めくり、福笑い、風船バレー、リハビリ体操、季節の花植え、洗濯物たたみ、もやしの根切りなどの下ごしらえ、食事の盛付け、食器洗い、モップかけなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を計画し年に2回は御家族同伴のもと外出している。季節の花見は、職員がドライブを兼ねて随時外出している。日々については天気・風を考慮しグループ敷地内を散歩・日向ぼっこしている	初詣、季節の花見(桜、紫陽花、コスモス)、ドライブ(園芸センターなど)にでかけたり、夏祭り(家族と一緒に参加)など法人の行事への参加や外食等の外出の支援をしている。散歩や日向ぼっこ、花植えなどで日常的に戸外に出かけ、家族の協力を得て外食や墓参り、法事への参加、買い物などの支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かり金としてご家族より預かっている。外出行事で買物をする時は横で見守り、支払いの支援をしている。必要に応じて、安心して頂けるように御家族了解のもと、小銭を所持されている方もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、季節の挨拶状などは家族へ送るように支援している。遠方の親戚等との手紙のやり取りは、希望に添うようにしているが状況に応じて家族の了解を得ることもある		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は広くし、家具は利用者が移動しやすく配置している。季節ごとの作品・習字・カレンダーを利用者と一緒に作り、行事の写真を壁に飾っている。温度・湿度管理を含め、清潔かつ快適な生活空間の保持に努めている	共用の空間は広くゆったりとして、居間の棚には本や人形、観葉植物を飾っている。壁面には利用者の作品や手づくりカレンダー、利用者の写真などを飾り、利用者の作品集を置いている。窓から見える風景や飾ってある季節の花で季節の移り変わりを感じることができるように工夫している。テレビやソファ、テーブルの配置など工夫し、温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で自席を決めて居場所を作っている。又、その時々人間関係等により席替えをし、利用者同士が落ち着いた生活が送れるよう工夫している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物を(鏡台・タンス・机・椅子・化粧品品…など)居室に置くことにより穏やかに過ごせるように工夫している	箆笥、鏡台、ソファ、椅子、時計などを持ち込み、ぬいぐるみ、ひな人形、造花、家族の写真などを飾っている。衣類や本、日用品など本人が使い慣れたものを持ち込んで、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事手伝いや作業をしていただく時は必ず職員が見守り、安心安全な環境を作る様に努力している		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあかつきの里

作成日：平成 27 年 6 月 16日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	24 (11)	介護計画書に添って本人が生活していく中で意向や希望を引き出し、それを生活の中で生かせるようにモニタリングを充実していく。	思いや意向の把握	①介護計画書に基づいて具体的に実践する ②各自の意向や希望・状況を把握し、日々のケース記録に記入する ③それを基にモニタリング実施して記録を残す ④一括してファイリングに綴じ、職員全員把握する ⑤モニタリングからアセスメントを作成し介護計画書に反映する	1年間
2	35 (15)	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるため訓練の継続	全職員実践力を身につける	内部研修の年間計画を作成し実施 ・初期対応 ・虐待及び身体拘束防止 ・接遇 ・与薬	1年間
3	36 (16)	火災や地震、水害時の災害時に地域との協力体制を築くまでには至っていない。	地域との協力体制の構築	地域の協力体制については、自治会にお願いしたり運営推進会議で協力を引き続き呼びかける	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。